



宮本欣子さんのピアノ演奏



西澤館長のごあいさつ



念ずれば花ひらくの合唱



恵村栄子さんの真民詩朗読

「Jチャンネルのお楽しみ口記」39

「被爆ピアノ」コンサート「の巻

私は平和を祈りつづける被爆ピアノです。
私はきつと哀しい音がすると思います。
誰よりも哀しい思い出があるから。
私は怒った音がするかもしれません。
誰よりも怒りに震えたことがあるから。
私はきつと、美しい音を出せるでしょう。

いつか、喜びの詩を奏でる日が来ることを知っているから。

七月のある日「坂村真民の会」のお世話役をして頂いている広島井上氣海さんからいいお話がありますから来週伺いますと電話がありました。

約束の日、小柄なジーパン姿の気さくな矢川光則さん紹介してくれました。

矢川さんはピアノ調律師でたまたま被爆ピアノの修理を頼まれた事から原爆でも生き残ったピアノを皆んなにも聴いて欲しいと平成一三年八月六日の原爆記念日に平和公園の被爆アオギリの前でコンサートを開き、現在まで毎年百五十回もの平和コンサートを全国各地で続けている方でした。

八月十三日、真民記念館ロビーいっぱいのお客様をお迎えし、矢川さんから被爆ピアノの紹介、続いて真民さんが広島を再々訪れ、平和を祈った「原爆地広島にて」「せいさんだから」といつて「等、七編の詩の朗読の後、宮本欣子先生のピアノ演奏がありました。

今回の「ミサコのピアノ」は絵本にもなっているもので、爆心地から一・八kmの民家で被爆、爆風によるガラスの破片跡や傷、へコミ、擦り傷がいくつも残っています。音楽オンチの私ですが思っていたよりも力強くそして澄んだ音色が印象的でした。

日本交通社も六十周年記念事業として県下の小中高生に出前サービスし原爆の恐ろしさと平和の大切さを伝えていきたいと思えます。

中村 剛志

平成28年9月号

